

No.	文書名称	該当頁数	質問（標題）	質疑事項	回答
1	仕様書	P.1	事業目的	神戸市として、①高校生、②大学生、③若手社会人、の3ターゲットについて、アプローチの優先順位はありますか？	優先順位はありませんので、全てのターゲット層に対してアプローチをお願いします。なお、本市が過去実施したプロジェクトを通じて、②大学生へのアプローチはこれまでも積極的に行っておりますが、新たに高校生についても積極的なアプローチをお願いします。
2	仕様書	P.2	事業目的	①高校生、②大学生へは、学校単位の連携を神戸市がどこまでお手伝いいただけるのでしょうか？	本市に関りがある大学・高校の担当者をご紹介します。紹介後は可能な範囲で、委託事業者様と一緒に学校訪問やプログラム連携に向けた打合せ等の実施、本市が現状関わりの少ない高校や大学へは、委託事業者様と本市とで協力して呼びかけを行なうといったことを想定しています。
3	仕様書	P.2	支援対象分類の定義	起業ジャンル（例）IT・テクノロジー・暮らし・商業など）について、優先順位や指定ジャンルはありますか？	起業ジャンルの優先順位や指定はありません。若者が関心を持つ起業ジャンルは多岐に渡るという想定ですので、ジャンルに拘らず、起業を後押しする取り組みを推進したいと考えております。
4	仕様書	P.2	支援対象分類の定義	<起業家層の定義の「コミュニティに関わる」について> コミュニティに関わるということは具体的にどのような行動を指すのでしょうか。想定している具体的事例はありますか？	コミュニティ内で開催する交流会・相談・プログラムへの参加などを想定しています。
5	仕様書	P.2	コミュニティマネージャーの配置	各業務内容のコミュニティマネージャーは重なりがあっても良いですか？	問題ありません。ただし、最低人数として、仕様書記載の人数配置は必須とします。
6	仕様書	P.2	既存の起業家支援プログラムの把握・情報発信	ウェブページで発信する際、新しくページを立ち上げる必要はありますか。また、その際のウェブページの構築は既存の予算内で構築するのでしょうか？	そのとおりです。ただし、発信用のウェブページは、事業の告知用のランディングページ程度のものを想定しております。また、神戸市と協議の上、神戸市が所有する媒体なども活用した情報発信をお願いします。
7	仕様書	P.2	既存の起業家支援プログラムの把握・情報発信	情報発信する場合、神戸市のどのような広報ツールを使用できますか？	広報媒体として、下記を使用できる可能性があります。案件発生時に、個別に神戸市にご相談ください。 <ul style="list-style-type: none"> ・神戸市プレスリリース ・KOBESTARTUP NEWS(Facebook,Instagram) https://www.facebook.com/kobestartupnews/ https://www.instagram.com/kobestartupnews/ ・神戸市新産業課のLPページ（本年度立ち上げ予定。現在公募中） ・KOBESTARTUP HUB(WEB) https://kobestartuphub.com/ ・神戸エンジニアリングラボ（slack。下記は事業の参考） https://kobe-engr-lab.studio.site/ ・つぶやこうべ（Twitter） https://twitter.com/tsubuya_kobe ・神戸市広報（Facebook） https://www.facebook.com/kobekoho/ ・神戸市広報(Twitter) https://twitter.com/kobekoho ・ひょうご神戸スタートアップ・エコシステムコンソーシアムその他関係者へのメール送付 など
8	仕様書	P.2	既存の起業家支援プログラムの把握・情報発信	既存のウェブサイト（例えば、神戸市外の利害関係者がいる大学連携サイト等）を軸としたウェブサイト運用は可能でしょうか？	既存のウェブサイト等との連携や相互紹介等は可能ですが、本事業の成果物として、著作権・所有権等は神戸市に帰属・譲渡する前提になりますので、既存の大学連携サイトを軸としたウェブサイト運用は想定しておりません。
9	仕様書	P.3	既存の起業家支援プログラムの把握・情報発信	<10以上の起業家層向けプログラムや支援の実施者と関係性を構築し、について> 具体的な関係性の構築、連携はどのレベルを想定しているのでしょうか。例) <ul style="list-style-type: none"> ・先方のプログラムにメンターとして参加する ・業務連携のみ行い、相互に情報交換会を設ける ・コミュニティ説明会を都度開く、など。 	「相互に集客をするという合意形成」を最低限の連携想定とします。なお、より多くの方に交流会・相談・プログラムに参加してもらうために、下記のような連携を行なっていただけたことが望ましいです。 (例) <ul style="list-style-type: none"> ・プログラムやイベント集客のために、相互に情報発信やコミュニティ等へ案内を実施。 ・教育機関と連携し校内でのイベントやワークショップを実施。本連携を契機とした交流会への参加。 ・他組織のピッチイベントのブラッシュアップを当事業の相談機能と連携して実施。 ・交流会での相互のプログラム紹介。 ・イベント等の相互乗り入れ、登壇依頼、連携イベントの実施。 ・交流会をある決まったフェーズ・ジャンル・属性の人向けに提供するために、他組織（教育機関や民間問わず）と一緒に企画する など。

No.	文書名称	該当頁数	質問（標題）	質疑事項	回答
10	仕様書	P.3	オンラインコミュニティの管理・運営	①起業関心層、②起業準備層、③起業家層、それぞれに提供する事業で別々のオンラインコミュニティを形成しても良いでしょうか？	コミュニティの活性化のためなど、必要に応じて、それぞれで別々のオンラインコミュニティを作っても構いません。ただし、ご提案いただいたような①②③のようなフェーズで分ける可能性もありますが、属性としては、特に高校生は別のコミュニティとしても形成いただけますと幸いです。 また、参加者全体への連絡などを想定した、全体をまとめるコミュニティなどについても、神戸市と方法などを協議の上、形成していただけますと幸いです。
11	仕様書	P.4	① 業務継続性の担保	<業務継続性の担保：業務引継ぎに伴う一切の作業を円滑に提供できること、について> 具体的にどのような対応を事前に準備すればよいでしょうか。	下記のような事前準備をもとに、引継ぎ時に書類やウェブサイトなど本事業に纏わる内容を引き継ぐことができる体制をとっていただきます。 ・本事業にまつわるウェブサイトやSNSの管理権限を委譲できる形にする。 ・コミュニティ参加者及び連携先の担当者の連絡先を、本市を通じて次年度に委託を受ける事業者提供できる体制をつくる。
12	仕様書	P.5	再委託について	<再委託について：事前に神戸市に承諾を得た場合は可能> 事前に報告する際はどれほど事前であればよいでしょうか。	再委託の申請・承諾の手続きを実施するため、1カ月前を目途に神戸市にご相談ください。
13	仕様書		その他	本プロジェクト専用のWEB記事を作成した場合、他サイトへの横展開などは可能ですか。	内容によりませんが、まず記事作成時に神戸市に共有いただき、事前確認・協議の上で、公開してください。また、他サイトへの展開の際も、神戸市と協議の上展開してください。
14	仕様書		その他	事業内容を提案する際に各支援事業者とコミュニケーションを取り、連携をしておく必要はありますか。また、その場合提案書に各支援事業者はどこまで入れる必要があるのでしょうか。	具体的に連携をしておくかどうかは提案者に委ねますが、提案内容の実現可能性ひいては審査会での採点に影響があります。 既に連携している事業者や過去に連携を行なった組織、連携の可能性がある組織等は、それぞれ状況や関係性がわかるように提案書に記載頂くことが望ましいです。
15	採点表		採点方法	<地元企業の参入促進：複数の事業者等により構成される共同体の場合は地元企業の割合に応じて評価する> 地元企業の割合はどのように定義するのでしょうか。	神戸市に本社がある場合は10点、神戸市に本社以外の拠点（支社、事業所等）がある場合は5点、共同体の場合は左記の合計点を平均した点を付与します。